



地球暮らし

地球温暖化防止と
環境共生住宅を考える

株式会社さつまホーム企画室
地球やりなおし計画
事務局

次世代へ引き継げる、理想の住宅を目指しています

みなさんこんにちは、さつまホームの瀧川です。もう師走ですねえ。今年もあっという間に終わってしまおうです。風邪やらノロウィルスやら、気をつけて下さいね。私もまめにうがいしています。

先月号から「環境共生住宅」のお話をさせていただいていますが、一口に環境共生住宅といっても、気候、土地柄などによって実にさまざまな形態があるものです。そこで今回は、環境共生住宅の定義を紐解いて、その共通の柱となるコンセプトを確認しておきたいと思います。



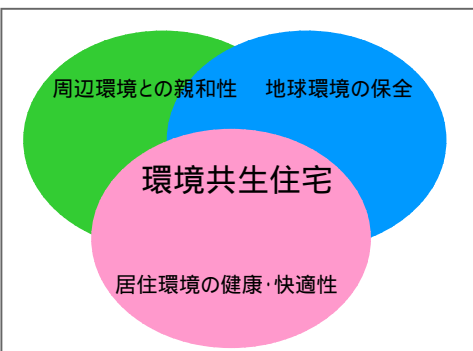
環境共生住宅 ~ その柱となる3つのコンセプトを確認しましょう ~

環境共生住宅を一言で説明するとどうなるでしょう？「地球と人に優しい住宅」といったところでしょうか？なかなか一言では難しいので、少し長くなりますが定義を引用しますと、

「地球環境を保全するという観点から、エネルギー・資源・廃棄物などの面で十分な配慮がなされ、また周辺の自然環境と親密に美しく調和し、住み手が主体的に係りながら、健康で快適に生活できるよう工夫された住宅、およびその地域環境」

となっています。

具体的には、下図に示すように「地球環境の保全(ロー・インパクト)」、「周辺環境と



の親和性(ハイ・コンタクト)」、「居住環境の健康・快適性(ヘルス&アメニティ)」の三つの目的に応じた取り組みがバランスよくなされた住宅を目指しています。これらをひとつずつ見ていきましょう。

地球環境の保全(ロー・インパクト)

住宅は、個人が使う道具としては最も大きなものです。ですから建てる時も、使っている最中も、大量の資源とエネルギーを消費します。そして廃棄する時には大きなゴミとなって環境に負荷をかけます。地球環境を考えると、建物のライフサイクルに配慮することは非常に重要なことです。材料生産時・建設時のエネルギー消費や環境汚染が少ない家。メンテナンスが容易で長寿命な、ゴミになりにくい家。そして廃棄されても環境を汚さない「土に還る」家が、地球に優しいロー・インパクトな家と言えます。

周辺環境との親和性(ハイ・コンタクト)

地上のいたるところには動植物がいて、それぞれに自然の循環のしくみがあります。それが市街地であれ田園地帯であれ、このサイクルは必ず存在しています。そうしたサイクルを住まいの

一部として積極的に取り入れて、住まいの「内」と「外」の融和を図ることが、快適な住まいづくりの



ポイントとなります。また逆に、地域全体を住まいの一部と捉えて、ご近所の人たちとの繋がりを育てていくこともこの考えの中に含まれます。

居住環境の健康・快適性(ヘルス&アメニティ)

住まいの基本性能は、やはり「安全で快適」であること。自然災害や火災から住まう人の命と財産を守る家であるべきことは言うまでもありませんが、近年問題になっているシックハウス症候群などの室内環境汚染の対策や、照明器具やエアコンの使用を抑えることができる設計など、内装材やプランニングのレベルまで配慮された住宅であることが重要です。

今月は少し抽象的なお話になってしまいましたが、次回はいよいよ、環境共生住宅としての具体的な工夫や取り組みについて見て行きます。

トピック

世界の平均気温、5番目の高さに

気象庁速報。今年の世界の年平均気温は平年(1971-2000年の平均値)より0.3度高く、同庁がこの統計を開始した1891年以降で5番目に高くなる見込み。特に最近の10年の高温傾向は顕著ですべて統計記録の11位以内に。

社説「温暖化防止・先進国が模範示せ」

日本経済新聞。11月にナイロビで開かれた地球温暖化防止条約締結国会議の不調を受け、「温暖化防止には途上国の温暖化ガス排出削減が不可欠であり、そのためにも先進国は排出削減の模範を示さねばならない」と指摘。

情報リンク

環境共生住宅推進協議会のサイト

<http://www.kkj.or.jp/>

環境共生住宅の普及・啓発を目的に住宅関連のあらゆる方面の企業で形成されている団体です

本文執筆にあたり、上記サイトを参考にさせていただきました。

お知らせ バックナンバーをプレゼント

『地球暮らし』創刊1周年記念として、バックナンバー全号をご希望の方に無料贈呈いたします。下記のEメールアドレス、FAXか、またはこちらの自動応答ダイヤルでご請求下さい。0120-868-099(無料)

編集後記 改めてご愛読御礼!

何度も言うようで申し訳ありませんが、『地球暮らし』を制作し始めてから本当にあっという間の1年でした。何かひとつでも皆様のお役に立つ情報提供ができましたでしょうか？ご愛読本当にありがとうございます。どうか良いお年をお迎え下さい。

このニュースレターに対するご意見、ご要望、投稿をお待ちしております。

Eメール: info@satsumahome.com

FAX : 06 - 6855 - 7700

郵便: 〒560-0053 豊中市向ヶ丘3-11-47

ステップビル3F (株)さつまホーム企画室

さつまホームは地球温暖化防止に取り組んでいます